

令和2年度 市町村部会 事業報告

1. 活動テーマ

「市町村部会で今後取り組むべき重点事項を明らかにする」

2. 目的

人口規模や職員数など、もともと個性・地域特性がさまざまな市町村の共通（固有）課題の抽出を行い、出された課題からテーマを絞り、ここ数年の部会等で検討した内容と照らし合わせ今後部会として取り組む課題・方法について明らかにする。

3. 実施状況

回	開催日	場 所	内 容
1	9月5日	メール会議	市町村の共通（固有）課題の抽出のため、調査様式による意見収集を実施。各委員の所属自治体の現状や圏域、県内の状況などを加味した回答を依頼した。
2	12月5日	メール会議	9月5日に実施した調査結果について委員と共有した。
3	2月13日	メール会議	これまでの部会活動を振り返り、次年度以降の活動の方向性についてまとめたものを委員と共有しとりまとめた。

4. 結果・課題

- 市町村保健師の活動内容は面積や人口規模、人口構成等で多様性がある。また、市町村保健師の特徴として、専門職だけでなく行政職としての対応（全庁的取組みや議会対応等）が求められ業務量の増加につながっている。また、ポピュレーションの幅の広さと厚さ、住民に身近な行政であることから、年々対応件数も増大しているが、法定メニューをするにも人員不足感がある。市町村特有の活動をするのであればそれ以上に人材を要する状況だが、都市部以外は人材確保が困難な状況もみられる。
- 人員不足な中、活動を推進する上で重要な要素のひとつとして、自組織の地域課題を仲間と共有し住民と共に活動を実践できる保健師を育てる“仕組み”が体系化されることではないかと考え、人材育成の要となる統括的役割を担う保健師の配置について着目した。
- 市町村の統括保健師配置状況は現時点で約5割となっており、都道府県や指定都市に比べ配置がすすんでいない背景として、業務の多忙さゆえにどう進めたらよいか等情報を得る機会が不足していると思われた。
- よって、今後の活動として、例えば配置に向けた具体的なプロセスを明確化したものや既に配置されている市町村での活動事例を提示するものひとつではないかと考える。
- また、統括保健師配置など市町村保健師の人材育成にあたっては管轄保健所の積極的な関与による研修、現任教育が不可欠と考える。保健所と市町村が協同して人材育成に取り組んでいる好事例を調査するなど今後検討できるとよいと思われた。

- ・市町村会員の拡大については、市町村部会の取り組みだけでなく各都道府県支部における市町村への呼びかけが大変重要であることから、支部活動の中で市町村会員が一緒になって考え、動く必要があると考える。

5. 支部活動の特徴

東京都内の貸会議室を予約し新型コロナの流行状況に応じた対面会議を計画していたが、第2波、第3波により感染拡大の収束がみられず対面会議が実施できなかった。また、各委員の所属自治体によってWEB会議システムの環境が揃わず、メールでの書面会議をもって活動した。

6. 委員

- 菅原 亜由美 宮城県岩沼市健康福祉部健康増進課
- 佐藤 好美 岐阜県多治見市保健センター
- 武田 恭子 宮崎県国富町役場福祉課
- 大澤 美穂子 神奈川県大和市健康づくり推進課
- 栗根 久美子 広島県三次市甲奴支所